

熊本県立小国高等学校 令和2年度（2020年度）学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>教育基本法の理念、及び「令和2年度（2020年度）県立中学校・高等学校における教育指導の重点」と、本校の三綱領「尚志・勉学・自主」の具現化を図る。基本的人権の尊重に基づき、生徒一人一人に対して深い愛情と理解をもって、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた「最適な指導・支援や合理的配慮」を行い、徳（豊かな人間性）・体（健康と体力）・知（確かな学力）の調和のとれた生きる力を備えた総合的人間力の育成に努める。また、郷土に思いを馳せ、生涯にわたって郷土に誇りを持てる人材に育てる。</p>

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>(1) 「徳育・体育・知育」の三育並進による知性と品性を備えた生徒の育成 (2) 志を高く（尚く）掲げ、自主的で意欲的に学び続ける生徒の育成 (3) 基本的生活習慣を確立し、情操豊かで社会性を備えた生徒の育成 (4) 適性を見極め、主体的な進路選択のできる生徒の育成 (5) 生まれ育った郷土に感謝し、郷土を誇れる生徒の育成</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	安心・安全な学校環境づくり	災害時における生徒の安全確保	防災マニュアルの見直しと防災教育の充実	防災マニュアルの改訂と防災に関する職員向けの研修を行い、生徒への防災教育についても実施する。	B	防災マニュアルの改訂と作成を行った。職員全体の研修が行えなかったため次年度機会を設ける。防災教育では防災だよりを新たに発行し、意識の向上を図った。次年度は避難訓練と合わせて防災教育に取り組む。
		不登校対策・適応指導の充実	ストレス対処教育、SCとの連携した支援で不登校の未然防止に取り組む。	LHRを利用したストレス対処教育等を実施する。教育相談体制を整える。	B	1年生向けにSCによる講話を実施したが他学年では行うことができなかった。人権教育部等と連携し次年度の検討を行う。教育相談ではSCによる定期的な面談を活用しながら生徒の支援に繋げた。実施後の情報共有の在り方を検討したい。
	開かれた学校づくり	積極的な情報の発信	小国高校の今を伝えるため定期的にホームページを更新するとともに、学期に1回小国高通信を発行する。地元のラジオ放送やケーブルテレビで学校の様子を伝える。	ホームページに掲載した内容をもとに小国高通信を作成し、近隣の学校に配付する。地元のメディアに学校の行事等を伝えるため情報を提供する。	A	昨年度は月1回だったラジオ放送を隔週で行い、行事予定や生徒の様子などを伝えることができた。様々なメディアに行事等取材していただき情報を発信することができた。
		保護者や地域の方との交流の活性化	学校行事への保護者及び地域の方の参加者を増やす。	育志会役員会やホームページ、地元メディア及び小国高通信を活用して行事の紹介や案内を行う。	B	行事等の案内は行ったが、今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため学校行事が中止となったりフェスティバルでも地域の方の入場をお断りしたりと交流はできていない。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学力向上	主体的・対話的で深い学びの実現	授業時間の確保と実施	授業の振替又は監督付きの自習を100%行う。自習の際は、必ず課題等の準備を監督者に具体的に示す。	授業の時間割変更を必ず行うとともに、必要に応じて特別時間割を作成して授業措置を徹底する。	A	出張やweb研修等がある週は特別時間割を作成し、授業入替をすることができた。突発的に授業担当者が不在の時も教科間及び学年間で連携を取り合い、対応することができた。
		職員の積極的な教材研究及び授業計画	授業アンケートにおいて授業内容・進度・板書等の評価項目で適切であると答えた生徒の割合が全て90%以上にする。	公開・研究授業週間において授業見学を行い、職員間で授業についての意見を交換することで授業力の向上につなげる。		B
	家庭学習時間の確保と習慣化	課題の管理と計画的な指導	授業アンケートで、課題を期限までに提出した生徒の割合を75%以上、遅れても提出した生徒を90%以上にする。	年度中に教務部が中心となって課題の与え方についての研修を行い職員の意識を高める。	B	課題を期限までに提出した生徒の割合は73.5%、遅れても提出した生徒の割合を合わせると93%だった。期限内に提出できる生徒をもっと増やす必要があるため、今後は生徒自身が課題をしっかり把握し、お互いに声を掛け合いながら主体的に取り組んでいけるような取組を行いたい。
	家庭学習の習慣化	宅習時間調査において、生徒の目標学習時間到達割合を60%以上にする。	各学年にエクセルシートを準備し、生徒の課題の種類及び時間を全職員が把握して、適切な指導を行う。	B	宅習時間調査における生徒の目標学習時間到達割合は、59.9%だった。2学期中間が達成率63.2%、1学期期末が達成率54.6%と差があったため、原因を検証し、次年度に活かしたい。エクセルシートは活用しなかったが前述したとおり今後は生徒自身が主体的に課題に取り組んでいけるような取組を行いたい。	

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
キャリア教育 (進路指導)	生徒のキャリア形成	キャリアパスポートの取り組み	「小国高校で卒業するまでに身につけてほしい資質・能力」を1つでも向上させた生徒を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートを学期の始めと終わりに作成する。 ・小国高校で身につけてほしい資質・能力を教室に掲示して、機会ごとに周知と意識付けを行う。 	A	キャリアパスポートの学期ごとの作成について、取り組むことができた。第一段階としての目標は達成した。身につけてほしい資質と能力に対する意識付けや能力を高める取組について第二段階に入る必要がある。
		保護者や外部機関等との連携	90%以上の生徒が進路決定への意欲の向上が図れる進路行事を実施する。また、保護者アンケートにおける進路情報の提供に対する肯定的評価を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査や各学年と連携しながら行事づくりを行う。 ・保護者のニーズを把握するためのアンケート9月に実施し、必要とされている情報を時期に合わせて提供する。 	B	進路行事で進路決定に向けて意欲が高まった生徒の割合は外部面接練習会が85%、校内進路ガイダンスが99%であった。以上の結果から、目標を達成することができた。保護者アンケートの肯定的意見は79.5%であり、昨年度より改善できているが、更に向上するために何が必要かを検討していきたい。
	校内進路指導体制の充実	教員の資質の向上	学校評価アンケート項目の「生徒や保護者に対して必要な進路情報を提供している」に対して「かなりそう思う」と答える教職員の割合を昨年の10%台から30%にする。	職員研修を学期に1回実施し、教員の進路指導力向上を図る。	B	「生徒や保護者に対して必要な進路情報を提供している」に対して「かなりそう思う」と答える教職員の割合が22.2%となり、改善できているが、目標に届かなかった。
		進路目標の達成	第一志望の進路先決定率を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・模試ごとに模試分析会を実施する。 ・面接、小論文作文等の指導の充実を図る。 	A	第一志望進路先決定率は、88%（33名中29名）で、内訳は、進学：93%（国公立大学100%）、就職：93%、公務員：50%である。個に応じた丁寧な指導を全職員で工夫して取り組んだことが高い決定率につながった。公務員希望者への指導のあり方について更に充実を図る必要がある。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
生徒指導	基本的生活習慣の確立	新しい生活様式と学校生活の指導の徹底	新型コロナウイルス感染拡大予防の観点からの生活様式や学校再開に伴っての基本的生活習慣について指導を徹底する。	全校集会で講話を実施するとともに、学年と連携して新しい生活様式や基本的生活習慣の指導を徹底する。	B	時期や状況に応じて職員や生徒に周知をしている。現在のところ感染者は出ていないが、今後も状況に応じた対策や予防をしていく必要がある。
		予防指導の徹底	停学以上の処分が「0」件	生徒指導部職員を中心に朝会後の登校指導を行い継続的に声かけを行う。生徒の現状に合わせ、長期休暇前や行事前後に内容を厳選して集会で講話等を行う。		B
	交道德に関する意識の高揚	交通事故・交通違反を無くす	重傷に繋がる交通事故「0」、交通違反「0」	2学期に交通安全教室を開催するとともに交通委員が定期的に交通安全について呼びかける。交通関連情報を職員に周知することで指導の統一を図る。	A	今年度交通事故、交通違反は0件であった。小国警察署の職員の方を講師として招き、交通教室を実施した。最近の交通事情に応じた講話をしていただき、生徒への交通安全への意識向上を促した。交通委員が中心となり学校敷地内の点検を行い、交通安全を促す掲示物を作成したり、情報発信による啓発をしたりしていく。
	自転車マナーの向上	自転車ワンロック100%	交通委員による朝の放送の呼びかけと定期的な点検を行う。	B		交通委員による啓発や点検により、自転車ワンロックの割合は80%である。今後は、定期的な点検に加えて、生徒の意識が向上するような周知の仕方等を工夫していく。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
人権教育の推進	人権教育に対する理解の深化	地域の人権関係行事への参加	小国郷人権啓発フェスティバルへの1年生全員参加。	事前指導を徹底し、参加することの大切さを理解させる。	B	きよら人権デーは中止となったが、小国町人権啓発フェスティバルに向け1年生全員が人権作文に取り組んだ。代表生徒が、おぐちゃんにて人権について自分自身の考えを発表することができた。
		人権教育に取り組む姿勢の捉え直し	教師が自身の姿勢を言葉で表現し発信できるようになる。これまで以上に人権が尊重されるよう授業が行えるよう教師間で見直しを図る。	公開授業週間等を活用し授業を参観した際に、人権が尊重される授業づくりの視点も踏まえて意見交換をする。人権に関する研修会等に全職員、1回以上参加する。	B	公開授業週間等を活用した授業参観は2度実施し、意見交換も行った。研修会は部落差別の現実と今後の課題、小国町人権啓発セミナー「心がかぜをひくとき」の動画視聴の2回を実施することができた。
	命を大切に する心を育む指導	自尊感情と自己有用感を高める	命の大切さを再認識させ自身の大切さと役割に気づかせる。	「命を大切に する心」を育む指導プログラムの指導ユニットに基づき、生徒の自己実現等の意識を高める。実践毎にアンケート又は感想文を書かせ自身を見つめ直させる。	C	「命を大切に する心」を育む指導プログラムの指導ユニットは各教科担当、担任により行っているが、内容を再検討する必要がある。
いじめの防止等	いじめの未然防止	自尊感情の向上	心のアンケートにおいて「自信のあることや自慢できることがある又は少しある」と答える生徒を80%以上にする。	人権教育LHRを計画的に実施する。人権週間に合わせて人権朝読書を行い、人権作文、標語を作成する。	B	心のアンケートで「自信のあることや自慢できることがある」という問いに対して、「ある」及び「少しある」と回答した生徒が66%であった。コロナ禍による影響もあると思うが、実施した取組を見直し、改善に繋げていくことが課題である。
	いじめの早期発見といじめ事案への対応	アンケート調査の実施と事後対応	いじめ事案については解消率100%を達成する。	学期に1回ずつ定期的にいじめアンケート及び心のアンケートを実施し速やかに対応する。	A	いじめ事案の解消率は100%を達成することができた。いじめ防止等対策委員会を臨時で開催するなど問題解決のために迅速に対応できた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域協働活動の推進	総合的な探究の時間の活用	両町役場等と連携して、生徒の積極的参加を促す。他校と連携を取り、情報交換しながら多角的な視点で探究活動を行う。	「小国郷を知る」講座を開講し、発表会を実施する。2年生は昨年度までの活動を踏まえて、各種コンクールや研究発表会等へ参加する。	B	2年生については各種コンクールに応募し、表彰を受ける生徒も出るなど成果を上げた。コロナ禍により、外部講師の招聘などに支障があったが、探究活動に積極的に取り組む生徒の姿が見られた。これまでの活動をいかに引き継ぐかが課題である。
		魅力創造と情報発信	これまでの地域との連携を更に発展させ、地元の資源(人、もの、環境など)を生かして小国高校の魅力を創造し情報を発信する。	ドローンサークルの設立や動画編集技術の習得などを行い、従来の学校新聞等での情報発信だけでなく動画等を用いて学校の魅力や地域の活性化につながる情報を発信する。	B	ドローンを活用した魅力創造については生徒会を中心に活動してメディアから取材を受けるなど、本校の取組を発信できた。リーフレットの作成にも取り組み、広報活動に力を注いだ。出願者数の減少など効果が表れていない状況もあり、今後の取組について再検証していく。
		地域団体との協働活動の実践	ボランティア活動に積極的に参加(全校生徒の90%以上の参加)する。保育や高齢者支援、食育活動を実施する。	両町社会福祉協議会等と連携して、高齢者や障がい者の支援、子育て支援、美化活動などに参加し、福祉活動に対する生徒の理解を深める。	B	大雨による被害へのボランティア活動を申し出た生徒がいたが、年齢制限があり活動できなかった。両町社会福祉協議会と連携を散り、手話講座や土のう作り体験など、様々な活動を行えた。
	学校運営協議会制度の充実	学校運営協議会の支援による特色ある学校づくり	地域での本校の役割や本校に対する要望等を把握し、各部、各学年が連携した取組を行う。	懸案事項や検討事項については活動を報告し意見をいただいて学校運営及びニーズに基づいた地域貢献に生かす。	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため学校行事等の教育活動が制限され、学校運営協議会の方から意見をいただく機会を十分に確保できなかった。
中高一貫教育の推進	中高一貫教育の充実	三校合同の交流活動の充実(交流授業、生徒交流)	第2回中高一貫三校合同研修会における交流授業と生徒交流のアンケート項目について肯定的な評価を80%以上にする。	数学・英語以外の交流授業の目的を明確にするとともに交流の対象は中学2年生を主にする。三校の生徒同士が交流する場を設定する。	B	交流授業のアンケートでは、92%が肯定的評価で達成できた。数学英語以外の交流授業も中学2年生の進路意識向上という目的で準備が進んでいる。生徒交流の学友団活動はコロナ禍の影響もあり、実施できなかったが高校見学での座談会やそれぞれの部活動での中高の交流など工夫して生徒交流ができていた。

4 学校関係者評価

- 高校生の学力の伸びを見て、送り出した側としてはありがたい。中学生や中学校の職員に小国高校に行けば伸びるということを伝えたい。支援学校との交流や小中学生に向けた学習ボランティアなど、地域に貢献するような取組を丁寧に実践している。一人一台端末の先行実践校として学習面でのメリットや具体的な活用方法など中学校にも情報を提供してもらいたい。
- 小論文コンクールで小国郷の郷土芸能をテーマとして優秀賞を受賞していることは素晴らしい。郷土芸能を受け継いでいく方法についても地域と連携して取り組んでもらいたい。
- アンケート結果の中の保護者が入学させて良かったという割合が高いということや、学力が向上していることは評価したい。町議会を生徒が見学したという話も聞いて生徒が積極的に活動していることがわかる。
- ボランティア活動に多くの生徒が参加しているだけでなく、参加している生徒は自主的で挨拶がしっかりできている。今後、ボランティア活動で地域のイベント等で活動したいという要望があれば実現に協力したい。
- 学力が上がっていることはうれしく思う。コミュニティスクールについてもコロナ禍の中でも、生徒たちがアイデアを出しながら活動していて素晴らしい。生徒を町の中で見かけても、挨拶ができている。議会の見学については、町がどのようにして動いているかを知る大事な機会であるので、取組を続けて欲しい。
- 中学校の生徒と一緒にボランティア活動などをすることで本校生の魅力を発信することができ、高校のアピールになる。地域の方と一緒に行動したり触れ合ったりする機会を増やすことで魅力化につながる。

5 総合評価

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、教育活動が制限される中、模索を続けながら本校の教育目標の達成に向けて取り組んだ。その結果、自己評価総括表では評価がAとBの項目が多く、目標を概ね達成できたと考える。

本校の魅力を発信するため、広報活動に力を入れ、新聞社やケーブルテレビ、地元FM局での番組制作など、積極的に取り組んだ。地域の方から本校の活動について、良い評価をいただいている。

進路指導面では、第一志望進路決定率が約9割となり、生徒の希望及び保護者の期待に応えることができたように思う。

また、家庭学習の習慣化については、昨年度に比べて改善は見られたが、まだ十分な学習量ではないため、来年度以降も継続して改善に向けた取組を行う必要がある。

生徒指導では、交通指導と登校指導に力を入れた。その結果、交通事故及び交通違反は0件で、目標を達成することができた。また、登校指導を継続することで、遅刻者が減少するなど、効果を上げている。

今後、本校生が持っている能力を発揮できるよう教育活動の更なる充実を図る。学校評価アンケートの結果から、本校に対する生徒及び保護者の評価は高く、期待の大きさが感じられる。今後も、重点目標の達成に向けて教育活動に改善を加えながら、生徒一人一人を大切にされた教育活動に積極的に取り組む。

6 次年度への課題・改善方策

- 生徒の家庭学習の習慣化については、昨年度から改善は見られたものの、予習・復習を中心とした学習習慣の確立には課題が残る。生徒の意識改革と教師の指導の在り方、課題の質や量について改善を促す。
- 人権教育の中には、評価をCとしている項目もあるが、これまでと異なる教育環境で見直しが必要だと認識した部分であり、今後、充実を図るため見直しに取り組む予定である。
- 学校運営協議会制度の充実については、コロナ禍の影響もあり、十分な成果を残せなかったが、来年度の取組に向けて準備をしていきたい。更に、これまでと同様の形態ではなく、学校運営協議会委員の方からの意見を随時伺えるような新たな委員会の在り方を探り、実行に移していきたい。
- 本校の魅力創造のため、生徒会を中心にドローンを用いた映像制作に取り組んでいる。ドローン操縦練習用の機器を購入し、講師を派遣してもらい、操縦技術の習得と映像撮影についての講習を行っている。この取組を発展させ、ケーブルテレビや道の駅等の地域各所において地域の風景を撮影した映像の放映を行いたいと考えている。